

a 学校教育目標	「自ら伸びる とともに伸びる 子どもの育成」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	自分を愛し、夢を語る児童の育成 小中一貫教育を進め、小1プロブレムや中1ギャップのない、子どもの通いたい学校、保護者が通わせたい学校づくり
----------	------------------------	----------------------	----------------------------------	--

評価計画					自己評価				改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	達成度	評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価		m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ		
確かな学力	幸崎思考力を育む授業改善による学力の向上	教務・研究部	考える姿が見える授業づくり	【授業改善】 ①思考スキルの視覚化 ②思考スキルの自己評価 ③自律した学習集団の育成	児童アンケート	肯定的評価 85%以上	肯定的評価 83%	肯定的評価 85%	100%	A	下半期の児童アンケートの肯定的評価は85%であった。 <成果> 6つの思考スキルを、発達段階に応じて絵カードで視覚化することで、活用する意識を高めた。 <課題> 自律した学習者に向けて、課題に応じた思考スキル・ツールを、一人一人が自ら考え、選択して活用できるようにする必要がある。	○	○	・ホワイトボードの活用は物事を整理し表現する方法としてよい。グループ学習が理解を深めることにつながっている。今後もどんどん活用して行って欲しい。 ・自主的な学びに意欲的に取り組む工夫がされている。
				【基礎学力の向上】 ①朝学、帯タイム、授業始め等を活用した漢字・計算・音読学習の実施 ②幸崎検定テストを活用した自主的な繰り返し学習を実施	学期末テスト	平均得点率 80%以上	平均得点率 国78% 算65%	平均得点率 国 84.5% 算 81.6%	105% 102%	A	学期末テストの平均得点率は、国語84.5% 算数81.6 %であった。H-QUの結果より全学年で学習意欲の向上が見られた。60%未満1学期の児童 名⇒2学期の児童 名 <成果> モジュール時間の複数対応による補充学習、授業始めの小テストの実施により、個のつまずき対策を強化した。 <課題> H-QUの結果から、学習面と生活面の両方からの支援が必要な児童が15名いる。	○	○	・授業への参加が難しい児童への共通認識がされている。課題に注目していく児童への手立てが必要である。 ・ICTの活用により効果的な共有や表現ができてきている。 ・一人一人が課題意識・目的意識をもって学習に取り組んでいることが肯定的評価や基礎学力の向上につながっている。自ら学ぶ力や人と関わる力を低学年から育むことが大切である。そして、チームプレー力を向上して欲しい。
豊かな心	親和性の高い集団づくり	生徒指導・保健部	目標に向けて、仲間と共に考 動・協働できる 子どもの育成	【授業改善】 ①ICTの活用計画や教職員の研修計画の作成及び実施 ②授業における積極的なICT活用	マイプレゼンの実施	年間2回以上	-	全学級達成見込み 100%	100%	A	各学級が年間に2回以上のプレゼンテーションソフトを使った発表を行うことができた。 <成果> ICTを活用した授業改善を進めることができ、子ども達がICTを意欲的に活用し表現する力を高めることができた。 <課題> タッチタイピングの練習や分かりやすい資料を作成する力、ICTとよりよく関わる力をさらに高める必要がある。	○	○	・多様な場面でICTを活用することにより、情報活用能力の向上を図る。 ・タイピング検定や記録会の実施 ・chromebookを活用したポートフォリオの作成 ・chromebookの日常的使用 ・研修による交流、及びICTを生かした授業改善
				【学級集団づくり】 ①学級チャレンジ ②幸崎五カ条 ③忘れ物Oチャレンジ	自己評価	肯定的評価の割合85%以上	91%	99%	109%	A	H-QUによる親和性を図る項目における達成率は99%。 <成果> 「学級集団づくり」 学級でチャレンジすることを決めて、毎日振り返りをしたり、達成することにより新たなチャレンジ目標に取り組んだりすることにより、達成感を味わい自己肯定感が高まった。また、達成したことを掲示し視覚化することで、他学年の頑張りを見合うことができた。 「異学年集団づくり」 スポフェス等の運営においてリーダーを経験することにより、高学年のリーダーシップ力が育ってきた。 <課題> 幸崎五カ条の取組は浸透したが、資質的要素を取り入れたさらにレベルアップできる項目の見直しが必要である。	○	○	・学級チャレンジに向けて挑戦し達成することにより一人一人が輝く姿につながっている。縦割り班活動をさらに増やし様々な経験をさせる場を設けて欲しい。 ・集団の中で社会性・人権意識・協調性を養うと共に個の役割も自覚させることも期待する。 ・自己肯定感を持ち他者を認めることは人の成長にとって重要であると思う。
健やかな体	体力向上	生徒指導・保健部	種目を決めて、目標に向けた体力向上	【体力向上計画】 ①自分が目標を決めて自己評価する体力カードの活用 ②学期に1回の測定 ③縦割り班を活用したスポーツDAYの導入	個人記録の結果	個別の向上率 100%	-	87.5%	88%	B	<成果> 全国記録と自分の記録を比べながら目標を設定したことで、記録向上を意識することができた。 縦割り班でスポーツフェスティバルや班対抗リレーを実施することができた。 <課題> 個別の支援が不十分であった児童が12人いる。	○	○	・楽しみながら体力をつけていく取組がよい。この取組により、運動面に苦手意識がある児童も仲間と共にチャレンジすることができている。 ・運動能力の課題をスポーツフェスティバルやリレー、縦割り遊び、ダンス等で楽しく取り組んでいるのがよい。
				【一校一貢献活動】 ①総合的な学習の時間や生活科、道徳における地域人材との交流 ②地域協働活動の充実に向けた振り返りの実施や発表の場の設定	実施回数	①年間1回以上 ②年間1回以上の発表 ③自己評価	100%	100%	全学級達成見込み 100%	100%	A	地域の人材との交流や地域学習を年間を通して計画的に実施する中で、地域や保護者に向けて自分達の郷土への想いを発表することができた。 <成果> 地域の事象や人に触れ合う活動を通して、その良さに気づけたという児童の声をたくさん聴くことができた。 <課題> 学年によって、年間の活動を充実させることに難しさを感じていたり、活動や学びが単調になっていると感じていたりする職員もいる。	○	○
地域に信頼される学校	郷土愛の醸成	教務・研究部	一校一貢献の充実による郷土愛の醸成	【チーム幸崎の向上】 ①準衛生委員会を中心とした全職員による働き方改革・業務改善についての協議実施 ②部での組織的・計画的な取組の推進	時間外勤務時間目標総時数の達成率	100%	100%	100%	100%	A	1月までの時間外勤務時間の目標達成率は、100%であった。 <成果> 部会の組織的・計画的な運営や継続的なICTの活用により、業務の平準化・効率化がさらに推進された。業務改善のソフト面＝「チーム幸崎」の雰囲気醸成することが業務改善につながった。	○	○	・適材適所の人材配置によりチーム力を向上し、業務改善をさらに推進する。 ・個性を発揮できる人材配置によるモチベーションアップ ・建設的な雰囲気の醸成 一人一人が生き生きと働くことができる組織へとさらに成長する取組